ブドウ（果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病		**・落葉は集め処分する。**	春と秋にでやすい。 ヨーロッパ系の品種は発病しやすい。 前年発生した園は開花前から予防散布する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	４月下旬～ ９月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティＣ水和剤　400～800倍 ジマンダイセン水和剤　1000倍 ホライズンドライフロアブル●　2500～5000倍 ランマンフロアブル●　1000～2000倍 リドミルゴールドＭＺ顆粒水和剤●　1000倍	
灰色かび病	５月中旬 （開花直前） ～６月下旬 （開花直後）	**1. 発病花穂は除去する。** 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤●　1000～1500倍 ストロビードライフロアブル　2000～3000倍 ポリベリン水和剤　750～1500倍 ロブラール水和剤●　1000～1500倍	裂果しやすい品種に発病が多い。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	休眠期	**1. 落葉は集め処分する。** 2. 次の薬剤を散布する。 ベフラン液剤25　250倍	５月頃雨が多いと多発する。デラウェア、キャンベル・アーリーなどの品種は弱い。
	５月上旬～ 中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トップジンM水和剤　1500～2000倍 アミスター10フロアブル　1000倍	
黒とう病	休眠期 （発芽前）	**1. 枝、まきひげは除去する。** **2. 発病新梢は除去する。** 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 デランフロアブル　200倍 ベフラン液剤25　250倍 ベンレート水和剤●　200～500倍	春先天候不順の年に発生多い。 一般にヨーロッパ系の品種が弱く、アメリカ系の品種は強い。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	５月上旬～ ６月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル　1000倍 アリエッティＣ水和剤　400～800倍 ジマンダイセン水和剤　1000倍 オーシャイン水和剤●　2000～3000倍 マネージＤＦ●　4000～6000倍 ロブラール水和剤●　1000倍	新梢が30～40㎝くらいになった頃から薬剤散布を開始する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。

ブドウ（果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
晩腐病	休眠期	**1. 枝、まきひげは除去する。** **2. 発病新梢は除去する。** 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ベフラン液剤25　250～500倍 パスポートフロアブル　250～400倍	６月下旬から収穫期にかけ雨が多い年に多発する。
	６月上旬～９月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル　1000倍 アリエッティＣ水和剤　400～600倍 ストロビードライフロアブル　2000～3000倍 トップジンM水和剤●　1000倍 ベンレート水和剤●　2000～3000倍	幼果期以降の散布は果実の汚れに注意する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
さび病		**1. 落葉は集め処分する。** **2. 発生園は冬期中に中耕する。**	梅雨あけから晴天が続くと発生しやすい。
	６月上旬～９月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 バシタック水和剤75　1000倍 ストロビードライフロアブル　3000倍 マネージＤＦ●　4000～6000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
うどんこ病	新梢伸長期以降	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トリフミン水和剤●　2000～3000倍 マネージＤＦ●　4000～6000倍 ポリベリン水和剤　1000～2000倍	春と秋に発生しやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
アブラムシ類		・次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤#1　1000～2000倍 ダイアジノン水和剤34#2　1000～1500倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #2大粒種のみ
ブドウネアブラムシ	生育期	**1. 抵抗性台木による接木栽培を行う。** 2. 次の薬剤のいずれかを散布もしくは土壌灌注する。 スプラサイド水和剤（土壌灌注）　500倍（10ℓ/㎡） モスピラン粒剤（散布）＃　30g/㎡（６kg/10ａ以下）	＃樹冠下または主幹周辺に散布する。

ブドウ（果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
フタテンヒメヨコバイ	５月下旬（開花前）・６月上旬（落弁後）	**1. 不要な副梢を摘み取り、園の通風と採光をよくする。** 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1000～2000倍 サンマイト水和剤 1000倍 スミチオン水和剤40#1 800～1000倍 パダンＳＧ水溶剤#2 1500倍 ベストガード水溶剤 1000倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意する。 #2大粒種のみ
カイガラムシ類	３月中旬（発芽前）	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤＊ 7～10倍	＊落葉果樹での登録 商品により登録が異なるので注意。
クワコナカイガラムシ	５月上旬（開花前）	・次の薬剤のいずれかを散布する。 スプラサイド水和剤#1 1500倍 スミチオン水和剤40#2 800～1200倍 ダイアジノン水和剤34#3 1000～1500倍	#1カイガラムシ類での登録 #2大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3大粒種のみ、若齢幼虫に適用。
チャノキイロアザミウマ	６月上旬～下旬	**1. 発生源となるので不要な副梢は早めに剪定する。** 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオンフロアブル#1 1000～2000倍 アドマイヤー顆粒水和剤#2 5000～10000倍 コテツフロアブル 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤#2 2000～4000倍 ロディー水和剤 2000倍	チャやイヌマキなどが寄主植物である。開花前および落弁後約１か月間の防除が重要。 #1大粒種のみ #2アザミウマ類での登録
アメリカシロヒトリ	生育期	**1. 若齢幼虫期には、巣網を作って集団でいるので枝ごと処分する。** 2. 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 アディオン水和剤 2000倍	幼虫は５月下旬～６月下旬と８月中旬～９月中旬の年２回発生する。
コガネムシ類	７月上旬	**1. 成虫の活動が鈍い早朝に棚を揺すって落下した成虫を捕殺する。** 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオンフロアブル#1 1500倍 スミチオン水和剤40#2 800～1000倍 モスピラン顆粒水溶剤#3 2000～4000倍	#1大粒種のみ #2成虫での登録 大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3成虫での登録

ブドウ（果樹類、落葉果樹類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ブドウトラカミキリ	10月中旬～３月中旬（休眠期）	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トラサイドA乳剤　200～300倍	山林に接した園で発生が多い。
	10月上旬（成虫発生終期）	**1. 剪定枝を放置すると発生源となるので処分する。食入痕を見つけたら幼虫を刺殺する。** 2. 次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤40＃　800～1000倍	＃大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。
ハダニ類	生育期	**1. 発生源となるので下草管理を徹底する。** 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アーデントフロアブル　2000倍 サンマイト水和剤　1000～1500倍 ダニトロンフロアブル　1000～2000倍 バロックフロアブル　2000倍 マイトコーネフロアブル　1000～1500倍	薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をしない。
その他の害虫		コウモリガ、ブドウハモグリダニ（毛せん病）、果実吸蛾類	